

# 検討内容（案）について

## 1. 令和 6 年能登半島地震の特性と主な課題

### 【災害の特性】

#### ①地震の概要

- 2020年末からの地震活動で最大規模のM7.6（最大震度7）
- 震源が比較的浅いため、震度が大きくかつ建物に影響の大きい揺れ（周期）が卓越
- 広い範囲における液状化
- 比較的短時間で津波の襲来
- 地震動による建物倒壊とその後の火災による複合災害

#### ②発生時期等

- 官公庁の長期閉庁期間中
- 年末年始の帰省等による滞在者の存在
- 日没直前の時間帯、比較的高い在宅率

#### ③地域性

- 高齢化率が高い
- 耐震化率が低い
- 陸路が限定



【参考】液状化による道路の変形（輪島）



【参考】火災による建物の焼失（輪島）

### 【主な課題】

#### ①道路の寸断

- 半島に向かう幹線道路をはじめ、多数の道路の寸断が発生
  - ・職員参集、被害や避難状況の把握、自衛隊等の応援機関の移動、物資輸送等、初動対応のスムーズな実施が困難
  - ・復旧段階においても災害ボランティアの受入やライフライン従事者の移動などに支障が生じており、復旧のスピードに影響

#### ②避難に関する課題

- 避難所、福祉避難所の開設・運営
  - ・施設の被災による開設困難
  - ・職員不足、既存の入所者対応による福祉避難所の開設困難
  - ・良好な環境の確保（プライバシー、発熱者等の隔離）
  - ・断水等による衛生環境の悪化（トレイの問題）
  - ・在宅避難者及び車両避難者への対応
  - ・自主避難所の開設状況等の把握
  - ・避難の長期化と2次避難の実施（避難者の孤立化）

#### ③その他生活等に関する課題

- 病院の機能低下（患者の受入困難、域外搬送、処方薬の提供）
- 社会福祉施設の機能低下（他施設への移送）
- 学校の再開遅延（集団避難）
- 避難地域の警備
- 災害廃棄物の仮置き場の確保
- 応急仮設住宅の用地の確保

※災害の特性、主な課題は報道や支援を実施した機関、研究機関等の情報を収集・分析したもの

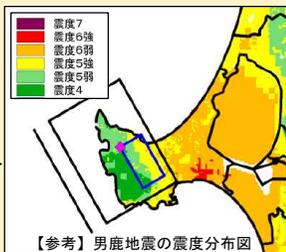
# 検討内容（案）について

## 2. 本県のこれまでの取組

- ・県及び市町村の地震・津波防災対策の推進のため、県において次の調査を実施
- ・調査結果を市町村へ提供し、津波ハザードマップの作成等に向けた基礎資料として活用することで各種防災対策を強化

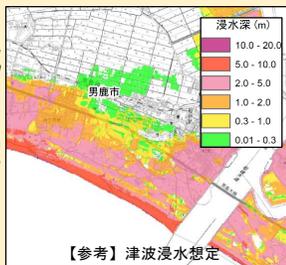
### ①秋田県地震被害想定調査

- 平成23年東北地方太平洋沖地震の発生を踏まえ、平成23年度から平成25年度にかけて被害想定を実施
  - ・27パターンの想定地震を設定
  - ・地震動と津波のシミュレーションを実施
  - ・人的被害、建物被害、交通輸送施設被害、ライフライン施設被害、液状化危険度など被害想定を取りまとめ



### ②秋田県津波浸水想定調査

- 平成23年12月に成立・施行された「津波防災地域づくりに関する法律」に基づき、平成27年度に調査を実施
  - ・最大クラスの津波を想定した、津波浸水想定（想定される浸水区域・浸水深）を設定
  - ・令和5年に津波災害警戒区域を設定
    - ※警戒避難体制を特に整備すべき区域



## 3. 検討内容（案）

- ・各テーマについて検討内容を設定
  - ※現在記載している項目のほか各委員からの意見等を踏まえ、検討のうえ設定
- ・リスクの設定から開始し、応急対策及び被災者支援について男鹿市・鹿角市の対応状況や課題等も踏まえて検討を実施

### テーマ1: リスク

- 地震により想定されるリスクを設定
  - ・被害想定は秋田県地震被害想定調査等を基本
  - ・時間経過による人口や施設等の状況の変化等を考慮
  - ・令和6年能登半島地震の災害の特性を踏まえ、男鹿・鹿角地域におけるリスクを設定
    - ※ 土砂崩れ等による道路の通行不能の設定等

### テーマ2: 応急対策

- 県・市の災害対策本部運営
- 被害情報の迅速な把握と初動対応
- 避難者の移動、救助活動、物資輸送等の経路確保
- 自衛隊、緊急消防援助隊、広域緊急援助隊等の受援体制
- 災害医療の提供、病院・社会福祉施設等の機能維持及び避難等
- 孤立集落（地域）対策 など

### テーマ3: 被災者支援

- 指定避難所及び福祉避難所の運営
- 在宅避難及び車両避難への対応
- 2次避難（広域避難）への対応
- 備蓄品目・数量、備蓄場所及び管理
- 災害ボランティアの受入体制
- 応急仮設住宅の確保 など